

(泉野地区) 学校再編について

意見要旨	説明・回答要旨
昨年、学校のあり方について、教育委員会から投げかけがあったことで、この1年間、小学校や泉野地区全体のことを一生懸命考える若い保護者や移住者が特に増えている。私たち高齢者も一生懸命考えて、若い人たちを支え、応援している。 市長の説明のとおり、これからの茅野市を担っていくのは子どもたちなので、その子どもたちの教育を考えることは本当に重要なことだと思っている。 茅野市が目指す学びの指針である縄文のビーナスプランには、一人ひとりの子どもの持つ多様性と力強さを伸ばすことが掲げられている。これを実現するために、小規模校も大規模校も両方必要だと考える。 特に小規模校は一人ひとりが主役となり、細やかな指導が受けられる。 東部中学校で「みずから学ぶ、地域で学ぶ。」を教育方針としているとおり、この地域では、様々な体験を通じた地域との結びつきも強い。 そのような点も含めながら、大規模校と小規模校のメリット、デメリットを考えていきたいと思っている。 私は、泉野小学校は小規模特認校として地域に残すことが良いと考えているが、泉野地区の中でも、大規模校に通わせたい保護者もいる。中学校区の中で選択できる仕組みなど、9校を残すための方法を考えていきたいと考えている。	(市長) 小規模校も大規模校も必要というご意見は、そのとおりだと思うが、茅野市に当てはめた場合にどんな形がベストになるのかを考えた時に、今後様々な問題が出てくる。その問題をどう解決していくかが大切。学校規模に限った各論で話をするのではなく、茅野市の教育としてどうあるべきかという大きなテーマ、総論で話が出来ればと思う。 財政的にも、施設の耐久度的にもこの先10年は問題なく現状の学校規模で運営できる。 逆に統合した際に発生する通学バスなどの諸経費の方が多くかかる可能性もある。 学校のあり方検討においては、財政的にどうすべきか、ではなく、子どもたちのより良い学びのためにどのような形が最適なのかを考えていきたい。 (教育長) 茅野市に小学校ができてから150年以上が経過している。その中で、4中学校、9小学校体制が約40年前に整えられた。 当時は、子どもが増えていたので、教室を増築する学校もいくつかあったが、現在は、その時代からは考えられないほど子どもの数が減ってきている。併せて急激に変化する社会の中で、子どもたちの学びにとって、現在の13校を維持していくのか、維持するにはどうすればいいのか、不可能な場合はどのような体制が良いのかを保護者の皆さん、地域の皆さんと一緒に考えたい。 市長が申し上げた十数年後の未来の方向性が、今後50年、60年の茅野市の学校体制

	となっていく可能性が高いので、しっかりと考えていきたい。 (学校教育課長) 今後、幅広くアンケートを実施していく中で、ご意見を参考に今後の学校のあり方を検討していきたいと考えている。
--	--

(泉野地区) 若葉台の自治会について

意見要旨	説明・回答要旨
若葉台の自治会は今、解散の危機に瀕していて、存続に向けて話し合いを進めている。	(市長) ご尽力をいただき感謝する。 我々がお手伝いできることがあれば、ご相談いただきたい。

(泉野地区) 泉野小学校存続に係る要望書について

意見要旨	説明・回答要旨
「泉野小学校の存続を求める要望書」が市に提出されているかと思うが、その中に、「泉野小学校における泉野フィールドスクール構想」というものがある。これは、泉野小学校を核として、泉野地域を活性化させるという構想で、子どもたちの教育だけでなく、地域の大人たちの生涯教育も目的としている。地域を活性化させることで、教育や文化、人とのつながりなどの、泉野の財産を守っていくことが大切だと、「泉野小学校の統廃合を考える会」では考えている。若いメンバーの中には、私たちが作った農作物等を多くの方に提供し、SNSなどに投稿するなどして、泉野の魅力を発信しているメンバーもいる。全市でこのような動きが生まれてくれば、まちの活性化につながると思う。	(学校教育課長) 学校のあり方に留まらず、入区や移住などといった様々な要素が含まれている構想だと認識している。 泉野地区の活力となり、区民の皆さんのやりがいにつながることは素晴らしいと思う。 (市長) 区・自治会や学校のあり方については、日本中で誰も経験していない問題なので、様々な意見をいただけるとありがたい。

(泉野地区) 移住者目線の茅野市のまちづくりについて

意見要旨	説明・回答要旨
私が移住してきた場所には、近隣に住宅がほとんどなかったため、区・自治会を作らないことを近隣住民と話し合って決めた。今まで大きな問題は無く、必要な連絡はとれているので、こだわりはない。 私が茅野市に移住してきた理由は、4桁を超える標高の涼しい土地であり、交通環境が比較的良いからである。しかし、茅野市はこの特性を全くアピールしていないと感じる。 子どもの人口を増やすために、条件付きで住民税の減額などを検討して、子育て世代を中心とした移住や茅野市に関わる人を増やすことが大切だと思う。	(市長) ご意見のとおり、標高が高く涼しい場所であるにも関わらず、アクセスが良いことが、移住者の増加につながっていて、エコーライン沿いには、お店が増えてきている。農業に携わる若い方も移住していただいでいて、今後この方たちが、しっかりと地域に根付いていただくことが喫緊の課題だと考えている。 (地域創生政策監) 私は、県を退職して、現在の役職となったため、茅野市出身ではないが、県職員時代から、この八ヶ岳西麓には大きな魅力を感じていた。今、都会の人々が求めているのは、自然の中で感じられる人の営みであり、それはまさにこの泉野地区にあるのだと思う。 交通環境について、茅野市は中京圏、関東圏から非常にアクセスが良いが、諏訪インターや茅野駅からの2次交通、3次交通が弱いので、地域の良さを失わないように、域内の交通の利便性を向上させ、移住促進につなげていきたい。

(泉野地区) TOYOTA GAZOO racing Rally Challenge について

意見要旨	説明・回答要旨
一番の見どころである山の中での走行について、観戦料を取るなどして、観光振興につなげてはどうか。 普通に施策を打つのではなく、尖った施策を展開しても良いと思う。	(市長) 魅力的な提案に感謝する。 トヨタとの契約の中で開催しているため、様々な制約があるが、より市民の皆さんが参加したくなる大会を目指して試行錯誤していく。

(泉野地区) 公共施設について

意見要旨	説明・回答要旨
公共施設の共用は非常に大切だと思う。今後人口減少社会を迎えるにあたって、茅野市だけでなく、諏訪6市町村で力を合わせる事が大切だと思う。	(市長) 6市町村が使っている火葬場やゴミ焼却場は、岳麓と湖周で分かれているが、災害時に相互に業務を補完する協定を結ぶことを計画している。 (副市長) 平成に入り、諏訪6市町村の合併の動きは3回あったが、全て破綻している。破綻するたびに、長野県内における製造品出荷割合の低下や企業の撤退などによって、諏訪地域の存在感は薄くなってきている。 合併が破綻したとしても連携していかなければいけなかったが、6市町村はそれぞれ独立して、施設等を運営していったため、6市町村全体でみると施設が多い。その施設の共用や災害時のバックアップについて今回話し合いのテーブルを設けた。多くの事を諏訪6市町村の副市町村長で話し合っているが、各市町村で温度差があるため、慎重に議論を進めている。現在公表できる項目は次の5つ。 1つ目は焼却場について、2つ目は広域観光について、3つ目は情報システム機器の共同調達や機器の共有化について、4つ目はスケート場や野球場などの公共施設の共用について、5つ目は定住自立圏構想の検討である。定住自立圏構想は、6市町村であれば、諏訪市を中心とした生活圏を連携して構築していくという国の制度で、ようやく動き始めたところだが、しっかりと議論していきたい。

(泉野地区) 教育政策について

意見要旨	説明・回答要旨
「若者に選ばれるまち」を目指したまちづくりの取組の 1 つとして、若者に選ばれる教育施策があれば教えてほしい。	(市長) これからを担う若者世代から積極的に意見をいただき施策を打っていきたいと思っている。 ベルビア内にアルピコ交通が所有していた床があったが、茅野市が譲り受け、若者の意見を取り入れて、多くの人が集まり交流するスペースを作っていきたいと考えている。教育施策についても、若者、特に子育て世帯の皆さんの意見を取り入れる事が大切だと思う。 (学校教育課長) 文部科学省では、現在学習指導要領の見直しが行われていて、これには複数年かかると言われている。公立の小中学校を所管している市教育委員会は、公教育という考え方で、児童・生徒に等しく提供しなければいけない教育と、一定の範囲内で地域性などを踏まえた特色を生かした教育を学校で提供することとしている。その範囲は、次期学習指導要領によって決まるため、現在、課として子育て世代に特化した施策を新たに打ち出す予定は無い。 (教育長) 教育施策は、「学校体制」、「教育内容」、「保護者支援」の 3 つを意識している。今の学習指導要領は 2030 年に向けての計画となっていて、その先の 2050 年に向けての計画は、来年か再来年に公表されると思う。恐らく、これまで茅野市が目指してきた方向性と大きく変わらないと考えている。新しい方向性が示されたところでしっかりと茅野市の教育方針をお示ししたい。

(泉野地区) 特色ある学校について

意見要旨	説明・回答要旨
先日、行財政審議会で、伊那市の特色のある学校についての質問があり、市からは、「地理的な要因でやむを得ず残っているが、茅野市では当てはまらない」との趣旨で回答されたと解釈したが、特色ある教育についてどう考えるか。	(学校教育課長) 審議会での質問は、具体的な学校の例が示されていなかったもので、教育委員会では、下伊那エリアにある学校を想定して、学校間の距離がとても離れているため、地理的特性上必要だと説明させていただき、茅野市の場合は、下伊那エリアの学校と比較して、学校間や市街地までの距離が近いと回答した。 ご質問いただいた学校の仕組みを否定するものではないのでご理解いただきたい。 (教育長) 山村留学や区域外からの児童・生徒の受け入れを行う学校が、一時期とても増えたが、現在、成功した学校と失敗した学校の明暗がはっきりと分かれてきている。 泉野地区で制度の検討をする際も、地域の雰囲気まで変えてしまう問題なので、しっかりと話し合うことが大切である。必要な資料があれば、共有させていただく。
泉野地区の地域性を生かした特色ある学校を希望すれば、行政は支援していただけるのか。	(市長) 現在、市としての方向性を示す準備段階なので、回答は控えさせていただく。いただいたご意見はしっかりと検討させていただく。

(泉野地区) 防災について

意見要旨	説明・回答要旨
今年の 7 月に緑の村で避難情報が発令されたが、LINE には、避難情報の解除の通知しか受信していなかった。家の中にある防災行政無線の受信機は、別の部屋にいれば聞こえないので、手元にある携帯に通知が欲	(防災課長) 土砂災害警戒情報の発令を受けて、緑の村への避難情報「レベル 4 避難指示」を知らせるサイレンを市内全域で鳴らした。LINE の通知については、即時通知できるように、

しい。情報発信の再確認をお願いしたい。	業者と打合せを進めていく。ご心配をおかけして申し訳ない。
雨が降った次の日など、よく道路脇に枝が落ちていて、子どもの通学の妨げにならないかと不安になる。道路脇の木々も成長し、景観も大きく変わってきていて、今後寿命等によって倒れてしまう木も増えてくる。市として、地区内の支障木を伐採する計画はあるか。	(建設企画課長) 道路沿線の木々の伐採、剪定は、民地の場合は土地所有者にお願いする形となる。枝等が道路にはみ出し、通行を妨害している場合には、県、市等の道路管理者が対応する。倒れる危険性のある木については、市にご相談いただければ、県等と連携を取り、対応について検討させていただく。 (市長) 林野の保全等のため、50年ほど前に一斉に植林した木が各地で成長し、整備が行き届いていない場所が非常に多くある。民地も多くあるため大変な作業だが、国や県、財産区の皆さんと協力して、整備を進めていく。

(泉野地区) 環八ヶ岳構想について

意見要旨	説明・回答要旨
今後八ヶ岳山麓の地域で丸一となって魅力を発信していくことになると思うが、市長から見て泉野地区の魅力はどんなところにあると思うか。	(市長) 環八ヶ岳構想は、八ヶ岳山麓 13 市町村が連携し、登山口に設置する協力金の徴収方法などの観光振興や、農業振興を一体的に取り組んでいくことを目的としている。 泉野地区を見た時に特筆すべき魅力は、標高 1,000m 級の高地でありながら、農地がしっかりとあることだと思っている。また、温暖化が進む影響で、今までリンゴやぶどうなど生育に適していなかった農作物の生産適地となってきたなど、魅力はさらに増している。 また、エコーライン沿いには、農園や飲食店などができてきていて、若者が一生懸命盛り上げてくれている。

	こういった魅力を、しっかりと発信していくことで、泉野地区の活性化につながると思う。市として精一杯応援させていただくので、今後もしもご意見、ご提言をいただきたい。
--	---